



あたたかい医療をみんなの手で

Human

“きみつだより”

'89 文化祭特集創刊号

玄々堂 君津病院 〒299-11 君津市東坂田4-7-20 PHONE 0439-52-2366(代)

NO.1 平成元年12月8日発行
編集責任者 茅野 嗣雄



病院文化祭ひらかる

晴天に恵れて、第1回病院文化祭は、院内・外の人で賑わい、大成功の中に終了しました。

十一月十九日君津病院で第一回病院文化祭が開かれた。午前は院内各部署の研究発表でレントゲン、薬局、病棟看護部等より9題の研究発表がおこなわれ、外来看護部より

発表された「患者個々の問題をふまえた糖尿病教室の設計(第二回糖尿病教室開催までの経過)」が優勝トロフィーを獲得した。午後は虎の門病院内科部長



第二回病院文化祭開会にあたって

院長 高田真行

開院以来十数年、地域医療の実践をめざして参りましたが、医療従事者が、地域の皆様と接する機会はいつも外来診察室あるいは病室のなかだけのもので空間的にも時間的にも非常に限られた狭い範囲でしかありませんでした。

地域住民の皆様、健康な生活と健全な社会の営みに寄与することが地域医療の目指すところとすれば、今までの狭い範囲のお付き合いでは地域

紫芝良昌先生の「病気で、ねたきり老人を介助するお嫁さんと娘の寸劇がコミカルタッチですすめられ、最後に、このオムツは絶対脱げません」と太い野尻先生や細い大神総婦長等がモデルになって舞台をハネまわり観客から爆笑がまき起こった。玄関前の模擬店は栄養科や事務ヤングが活躍してタコヤキ、ヤキソバ、アイスクリームなどをつくって人気を呼んだ。

基準看護特ニ認可される
かねてから千葉県社会部保険課に申請中であつた基準看護特三が十二月一日付で認可、ただちに施行された。
特三類は現行基準では最高のものであり、当院の看護体制が優秀であることを公的に認められたもので、施設全体が指定を受けるのは千葉県内では旭中央病院について二番目であり、今後なお一層の努力が求められている。

医学書のご用命は在庫豊富な当店へ

臨床医・研究者・研修医・医学生・皆さまの書店へおまかせください!

- お電話のご注文もお受けいたします。在庫なき場合でも至急お揃いいたします。
- 海外発注品につきましては、外貨事情の変動にともない定価が変更されることがあります。あらかじめご了承ください。
- 医学書はもちろん、隣接の歯学書、薬学書、看護、検査、X線などのパラメディカルまで、医学関係書はすべておまかせください。

営業時間：平日=AM9:00~PM7:00 土曜日=AM9:00~PM5:00
*なお、誠に勝手ながら日曜・祭日は休業させていただきます。

株式会社 志学書店

〒280 千葉市美鼻2丁目2番5号(千葉大学医学部正門前)
☎0472(24)7111(代表)/FAX.0472(22)8600

賑わった「展示・相談コーナー」

一階では施設見学、各種相談コーナー、展示・実演・介護劇などが開かれ、野外に模擬店が設けられたが、当日の様態と感想を担当にまとめてもらった。

介護に便利なものがいっぱい。



いつき、もっと勉強して健康食品を普及させてみなさんの健康維持に協力しなくてはとつくづく考えさせられました。そして来年の文化祭にはドクターやナース、メーカーの専門員などにも協力をお願いし、一人ひとりの体質にあった健康食品を選んであげようと思いました。

心マッサージと人工呼吸法

ICU 島 正子

ICUでは、その特性を生かして「救急蘇生法」と題して心臓マッサージと人工呼吸法の実演をみてもらうことにした。人形モデルに人工呼吸器を装着し、会場で実際に動作させ、救急蘇生法と器械の用途や操作方法などをわかりやすく説明したが、ある母親は自分の息子が交通事故で現在入院中であり、吸引をみていてつらいがこの器械に頼るほど重傷でなくて良かったと話していた。

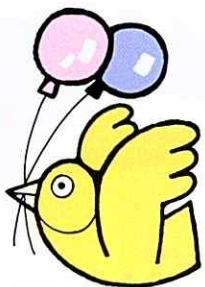
健康食品への関心は想像以上

ノバ・メデックス 増田シズエ

食事はいまや空腹感を満たすことから健康を作るためのものという認識が変わってきました。健康食品に対する関心の高まりは今回の文化祭でも驚くほどであり、ビタミン、カルシウム、繊維食といった品目について熱心な質問があ

病棟の一日をテーマに

4階病棟 二瓶律子



わたしたちは来場者の皆さんに病院病棟の一日の流れを知っていただく目的でテーマを決めました。普段はあまり持ち込まないカメラで朝早くから深夜の巡視風景まで一日のさまざまな看護業務をフォローアップしてみました。もちろんプライバシーには充分気を付けて患者さんとナースのふれあいを大きな模造紙に表わしてみました。写真の出来ばえもまあまあで私達の仕事について充分アピールできたのではないかと自負しております。今回病棟自慢の電動リフト入浴装置を展示しましたが、すこしPR不足で来場者の関心はいまひとつでした。今度は実際に動かしてデモし

癌に質問が集中

放射線科 浦部 勉

てみたいと思います。今年のテーマは入院についてのためらいを少しでもなくするために役立ったのではないかとありますが、同時に4階ナースのチームワーク作りにもすぐく役に立ったと考えます。大変お疲れさまでした。

事務よりも人間ドックに集中

事務 長嶋克二

今回はX線・CTについて実演と症例の展示を中心に行ないました。しかし、見学者は機器の説明やCTの実演にはあまり興味を示さず、症例に興味があるようでした。特に、癌については大変関心が集まりましたが、CT中心でしたので十分な理解が得られなかったのではないかと感じます。来年は癌を中心に、胃・IXP、CT、アンギオ、エコー、ファイバースコープなどを集めて展示したら良いと思います。また、展示場所が離れていましたので次回ももっと広く見学しやすい所で行ないたいと思います。

このくらいの味噌汁なら飲める

透析看護 白井やよい



を持っていく人がかなり多く、人々が人間ドックにかなり関心を持っているのがわかった。来年は人間ドックをとりあげたら来場者にアピールするのではと思う。

術後相談コーナー

3階病棟 重松美代子

この位なら飲める。意外においしい」と好評でした。展示の方はじっくり読んでくれる人は少なかったけれど、220人もの人に減塩味噌汁を味わってもらい今後の食生活の参考にしてもらったことは大きな収穫でした。



「一寸待ってね、いま焼けるから。」

現在、透析患者はCAPDをも含めて208名でなお増え続けています。「検診で蛋白が出ていたといわれたが、そのままにしておいた」とか、「症状がないから」放置したというケースが多いので文化祭の機会にもっと腎臓病を知ってもらうよう「腎臓病の早期発見」をとりあげてみました。早期発見、腎臓の形、尿がでるまで、血液透析などについて展示をし、同時に減塩味噌汁(普通の半分くらい)を作って試飲してもらいました。「自宅の味噌汁より薄いけど、

手術後困っている事なんでも相談を受けましょうとドクターの協力を得て相談コーナーを設けた。入院中の患者さんと来場者数人の相談を受けたが、手術後の方からは再び元のように働けるかと相談を受け、また肺の手術の後の患者さんからは再発がないか、肺機能の減少はないかなどと相談を受けドクター協力を依頼した。また、アンケートを記入してもらったが今回は手術後の相談と限定したため比較的少なかったため来年はもっと広く例えば癌や手術についての相談を受けるようにすれば利用者が増えるのではないかと考えた。

黄色ト
黒ハ
勇気ノ
シルシ。
24時間、
戦エマスカ。



90
おかげさまで三共は
創立90周年を迎えました。



三共のビタミンドリンク
リゲイン®
医薬品

Regain

◎薬局・薬店でお求めください。

ビタミン®配合肉休疲労時の栄養補給に

**おじいちゃん
あのチョコレートが
食べたいよう**
栄養科 城之内清美

肥満を防ぐ食生活のポイント、一日の食品組み合わせ例、食事プラス運動こそ減量作戦の決め手などのパネル展示、ケーキやバナナ・ウイスキーハンバーガー・ポテトチップ等40種類の80キロカロリー1分の実物展示、肥満の食事指導、コンピュータによる食事チェック等の栄養相談をおこなった。一番人気は実物で、「日本酒はこんなに栄養があるの」、「柿は2個くらい食べちゃいなあ」とか声が上がりお孫さんから「あのチョコレートが食べたいよう」とせがまれているおじいちゃんの姿



血圧測定・健康相談コーナー

も見られた。栄養相談には15人ほどの方がみえ、肥満や貧血、便秘の相談まで受けた。コンピュータによる80キロカロリー消費に要する運動時間の算出には多数参加してくれた。また栄養科以外の人も説明に協力してくれ、有難うございました。



日本酒はこんなにカロリーがあるの？

お茶がうまい
透析技術 三浦国男

臨床工学技士展示部門では血液透析に用いられる水を取りあげ、総合的な水処理システム(濾過、吸着、軟水化、逆浸透等)についてパネル展示するとともに水道水と透析用処理水で作ったお茶を試飲してもらった。大部分の人が水の違いに納得されたようだが、透析というよりは飲料水として興味を持たれたようだった。パネルはちょっと難しかった。来年度来年はもっと興味を持ってもらうよう字の大きさや内容に工夫が必要と反省した。

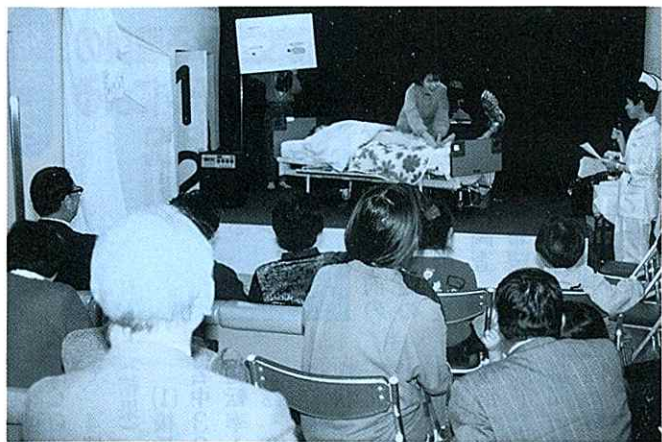
**大人のオムツカバー
を手にとってみる**
ノバメディクス 野見山雅子

障害者の介護用品はどこで入手してよいか途方にくれる家族の方がいかに多い事か、私達はオムツカバーや腰掛け便器などさまざまな介護用品を展示し多数の来場者へ実際に手にとって頂き、またエアマット、電動ベッドなど高価なものにはレンタルも出来ることを知って頂きました。これらの物を通して地域の人々にも少しでも役に立ちたいと考えております。

**体重計に
乗りたくない**
外来看護 鈴木育代

肥満と成人病をテーマに肥満測定・血圧測定・健康相談をおこなった。血圧測定は多数の来場者が希望したが体重測定には顔を見合わせ「やめた」。

「あたたかい医療をみんなの手で、いつでも、だれでも、気軽に」のテーマのもとに私



介護のコツはこうやって



オムツは全然はずれません。

**マンガでやったけど、
お世話のコツ、わかった？
みんな頑張ってるね!**
社会福祉士 間中裕子

住宅介護について出展の意味を考えました。介護のオリエンテーションになることはもちろん、病院の初めての文化祭で演ずること、立場や境遇の違う人が見に来ていること等を考え合わせ、すこしコミカルに、分かりやすくそれでいて内容は射しているもの……と欲張りしました。結果は皆さん見ての通り(大

**プロの味は
いかがでした?**
栄養科 坂井静枝・吉田睦子

日頃病院の裏方に徹している私達は表玄関の真前に陣取り腕をふるいました。当日は風もなく穏やかな暖かい日和で、おでん・焼きソバ・タコ焼き・せんざい・アイスクリームのメニューは大変な売れ行きで、とりわけ焼きソバ・タコ焼きの前には長い列が出るほどでした。てんでこ舞いの一日でしたが味の評判も上々で、嬉しい悲鳴の一日でした。事務のヤンガやいろいろの人の人たちのご協力で大成功に終わり深く感謝いたします。収益金の29,119円は全て若津市社会福祉協議会に寄付させて頂きます。ありがとうございました。

**他院の技師と
情報交換**
検査科 山本てつ子

血液、尿の検査について展示をしたが、乳び血清・貧血血清、黄だん血清の展示に来場者はとても興味深げに「ご飯を食べるとこんなに白くなるんだね」と感心していた。尿のスライドも見てもらったが、注目をひくにはいま一つというところだった。他の病院の検査技師の方も来場し、いろいろな情報交換もおこなわれた。来年は、もっとオープンにして来場者が気軽に入り、興味を持ってもらうよう工夫をしたいと思う。今回は皆で手分けして測定装置の名称や目的を書いたり、メーカーからパネルをお借りしたり、研究発表の資料をつめをしたり、レポートをかいたり、文化祭という一つの大きな目的のために全員が一体となって身も心も集中し夜おそくまで頑張った。納会の時の安堵感と解放感は言葉で言い尽せぬものであった。みなさんありがとう。

FUSO キンダリー液 AF-2号、AF-2P号、AF-2S号

人工腎臓用透析液キンダリー液シリーズに、新たに糖加重炭酸型のAF-2号・3液種(AF-2号、AF-2P号、AF-2S号)が加わりました。

キンダリー液各号希釈使用時の電解質組成
*pH調整剤 水酸性的CH₃COO⁻ 2mEq/lを含む

	電解質組成 (mEq/l)						ブドウ糖 (mg/dl)	包装		
	Na ⁺	K ⁺	Ca ⁺⁺	Mg ⁺⁺	Cl ⁻	CH ₃ COO ⁻				
キンダリー液	1号	134	2.6	2.5	1.5	104	36.6	554.5	2.5ℓ×4	
	2号	132	2	2.5	1.5	105	33	—	200	10ℓ×2
	3号	132	2.0	3.5	1.5	104	35	—	200	10ℓ×2
	G.F号	135	2.0	3.75	1.5	105.25	37	—	—	10ℓ×2
キンダリー液	AF-1号	135	2.5	3.5	1.5	106.5	8*	30	—	(A液9ℓ+B液11.34ℓ)×1
	AF-1P号	—	—	—	—	—	—	—	—	(A液10ℓ+B末882g)×2
	AF-1S号	—	—	—	—	—	—	—	—	(A液10ℓ+B末928g)×2
キンダリー液	AF-2号	140	2.0	3.0	1.0	110	8*	30	100	(A液9ℓ+B液11.34ℓ)×1
	AF-2P号	—	—	—	—	—	—	—	—	(A液10ℓ+B末882g)×2
	AF-2S号	—	—	—	—	—	—	—	—	(A液10ℓ+B末928g)×2

◇効能・効果、用法・用量、使用上の注意については製品添付文書をご参照下さい。

〔資料請求先〕 扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター学術課 〒536 大阪府城東区森之宮2丁目3番30号

薬価基準収載品

製造発売元 **扶桑薬品工業株式会社**

シオノギ製薬

いま
すぐ
パイロン。



かぜの
諸症状の緩和

この医薬品は「使用上の注意をよく読んで正しくお使い下さい。」



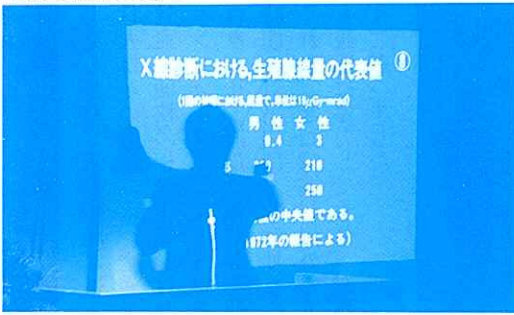
'89-10A52

登録商標



文化祭 院内研究発表会

院内研究発表会場



文化祭開会式に引き続き、会議室で三時間にわたって院内研究発表会が行なわれた。総司会は岩松勝實委員長が担当し、総合評価を院長、講師を副院長、重松先生、鈴木先生が行なった。演題を三群に分け、座長を三浦、佐久間、杉村が担当した。各演題のテーマ、部署、発表者、共同研究者は次の通り。

発表1

患者個々の問題を踏まえた糖尿病教室の設計

(外来)
島田弘子(発表者)
榎本洋子
伊藤かづ

他の医療施設で行なわれている糖尿病教室は無作為に行なわれるため患者個々の問題に対応しきれない点があった。そこで当院では予め患者情報を分析し、患者個々の問題点を踏まえた教室を設計することを試みた。患者情報を分析してA-E群にわけ各群別に糖尿病教室を開き患者と話し合った。

- A群 Ⅱ非内服治療者及び内服治療中で六ヶ月以上継続して空腹時血糖が130mg/dl以下であること。
 - B群 Ⅱ内服治療中で六ヶ月間の最高・最低差80mg/dl以上であること。
 - C群 Ⅱ内服治療中でFBSが六ヶ月以上常に150mg/dl以上であること。
 - D群 Ⅱインシュリン治療群。
 - E群 Ⅱ特殊糖尿病(小児糖尿病)、糖尿病性網膜症、糖尿病性壊疽、糖尿病性腎症、アルコール障害、妊婦)
- 糖尿病教室を開催しての利点
- (1) コミュニケーションの場がもてる。
 - (2) 問題点を把握しやすく、重点的に指導すべき点の予測がたつ。
 - (3) 患者に前向きな姿勢が伺える。
 - (4) 教室出席後の患者の血糖値に好転がみられる。
 - (5) 医療チームとしての連携の大切さを再認識できた。今後、患者個々から出た問題についても掘り下げ、解決し、患者とともに歩んで行ける教室にしたい。

発表2

当院における職員のHBワクチンによる免疫獲得状況

(検査室)
佐藤美恵子

(目的) (1) ワクチン接種前のHBs抗体保有率と接種後の陽転率の調査 (2) 副作用調査 (3) 一年後の抗体価の調査(方法) ワクチン接種を希望した職員のうち、HBs-A b(一)に初回、一ヶ月後、五ヶ月後に三回接種し、抗体(一)にさらに倍量を追加し、一ヶ月後

発表3

ジコキシン血中濃度測定の実際と有用性について

(薬局)
住沢直子ほか

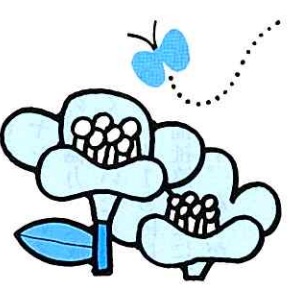
ジコキシン(以下DX)という薬物は、治療域の範囲が狭く、有効で安全な投与量を決定するのが大変困難な薬物である。そこで我々は、当院におけるDX服用患者のアウトライン、血中濃度測定の実際を調査し、血中濃度と、効果に影響すると思われる種々の因子との相互関係について、比較検討をおこなった。結果として相関性を認めると同時に至らなかつたが、外来・透析患者ともその治療域にほぼ良くコントロールされており、また、外来・透析入院患者における血中濃度測定の意義の違いが明確になった。

発表4

放射線は何処まで危険か

(放射線科)
石原 誠

抗体検査をした。測定結果はCO値2.0以上、PHA法で、4倍以上を陽性とした。(結果)
(1) 接種前抗体保有率16.1名中33名、20%。接種後陽転率12.8名中11.4名89% (2) 副作用調査(121名) 症状あり82名68%、症状なし39名32%。(症状77件重複回答)
(3) 一年後の抗体価は25.6倍から6.4倍、6.4倍から1.6倍へと殆ど全てで抗体価の低下をみた。(考察) 抗体価は時間の経過と共に低下する傾向があるので、今後定期的な抗体検査が必要であると考える。



発表5

透析患者における血漿量変化と高ナトリウム法

(透析)
神子千江子(発表者)
齊藤 晃、藤井俊治
池沢正雄、三浦国男

(目的) 血液透析中、急激な血圧下降を中心とした不均衡症状を呈する症例がみられる。このメカニズムは、ダイアライザーからの除水よりも組織内から血管内に移行する水分が少ないうえに血漿量も減少することにより起きると推測されている。このような症例のリスクファクターとしては、種々あげられるが、今回は肥満患者について検討し、あわせてその予防法としての高ナトリウム法を報告した。(方法) プロローカー法による標準体重で肥満患者群と他群に分類し、透析中の血漿量推移を比較分析した。高ナトリウム法はナトリウム濃度170mEq/l、1時間交互変換方式を用いた。

発表6

食事メニュー選択制の導入-成果および反省-

(栄養科)
石井百合子ほか

入院患者アンケート調査にもつき、メニュー選択制の必要性、方法、結果、および問題点について発表した。

発表7

脳幹部梗塞患者の在宅療養への援助-患者家族が在宅療養を受容するまで-

(3F病棟)
大滝典子(発表者)
郷田芳子、重松美代子
西宮千恵、大神ヨシ子

今回私達は四十才女性の脳幹部梗塞患者を在宅ケアへ継続するケースを経験した。医療依存度の高い患者を在宅介護へと進めていくには多くの困難な問題がある。家族による退院拒絶の時期から受容の時期へ、その状況に合わせて清潔ケアをオリエンテーションし、MSWや訪問看護婦との連携をはかりながら、看護展開を行なった。在宅療養開始後、患者の意識レベルは改善し、床ずれなども目を見張るばかりに軽快し、患者家族の関わりあいの重要性をあらためて教えられる思いであった。

発表9

急性虫垂炎-今なぜアッペなのか-(ビデオセッション)

(医局)
野尻 亨

いわゆる「モーチョー」の名で親しまれている急性虫垂炎は身近な疾患である。しかし、その診断、治療、治癒に一貫して知るチャンスは意外にも少ない。そこで我々医局員は雲の心を發揮し、アッペにかかった患者の外来来院時から手術を経て元気に退院するまでを演じ、ビデオセッションというかたちで世に一石を投じてみた。幸いにも観衆の反応はまずまずで、場内は驚嘆と歓声とため息とが渦巻きアッペに対する関心の高さが窺い知ることが出来た。ビデオ後の質疑応答も活発に行なわれ、診断におけるX線写真の重要性、アッペの病因論鑑別診断と的確な診断の難しさ、アッペにかならないため多岐に亘る論議が交わされた。文化祭の終わつたいまなお、我々の心血を注いで住ったビデオのリバイバルを渴望する声が高まっている点は、アッペに対する関心が如何に高いかを示唆するものとして看過することはできない。

発表8

医療保険のしくみ

(事務)
竹沢達司

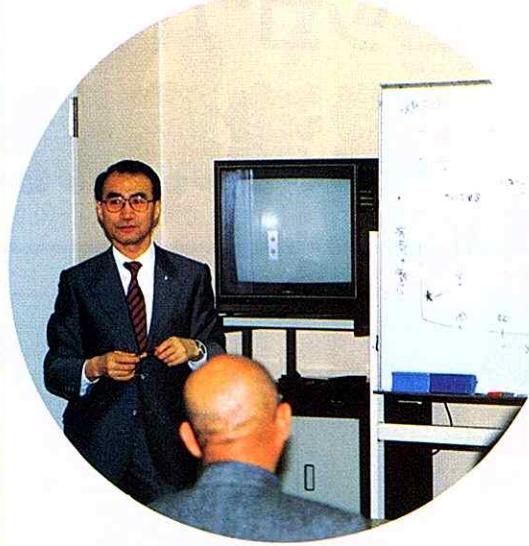


保険の種類は大きく三つに分けられる。社会保険、国民健康保険、老人保険であり、各保険の個人負担割合と診療費について解説した。また、高額医療費については月57,000円以上は払い戻しがあり、資格喪失後の継続療養もできること等を説明した。今回のような内容を取り上げたのは、当院の職員も社会保険の加入者でありながらこの仕組みをよく理解していない人が多いようなのでこの際認識を貰うためである。

特別講演

「病気との戦い」

虎の内分科部長 紫芝良昌先生



病気とどうつきあったらよいか。

あることを見ても、本能の破壊がよく分かります。ですからこれからの病院の役割として医学の知識について誰でもが相談にのれるセンターであることが必要となってきます。

多くの病気は予防することが出来ません。しかし現在の知識では予防することの出来ない病気も数多いのです。癌は予防できないものの中に入ります。癌は生命に必要な細胞の増殖の機能に狂いが生じたために起こるもので、ある意味では人間の進化の代償とも言えるかも知れません。ある種の先天性の疾患も人口10万に4、5人の割合で起こりうるものです。病気はすべて予防できるという考え方に立つと病者が安心して生きて行ける社会ではなくなる恐れがあります。

健康な社会とは病気の無い社会でなく、病気の人も安心して生きて行ける社会でなくてはなりません。君津病院が地域でこのような方向に発展されるよう祈るものです。

病気との戦いに最も必要なものは生命力です。どの様に生命力を発揮するか、これが大きな問題です。人間はもはや生命の全てが本能によって自動的に調節される動物ではありません。むしろ人間は本能の破壊されたりあるいは破壊されつつある動物だと定義する方が当たっているように思えます。だとすると何よりも自分で病気と戦おうとする自主性、主体性が大きな力を発揮します。自らが病気と戦う努力をしてはじめて医学と医療は病者を助けることが出来ます。そこにはじめて病者の尊厳が生まれます。病気と戦うには正しい知識が必要です。例えば食事の量ですら、食欲のみを当てにする訳にはいきません。糖尿病では正しい食事療法を知識として知り、実行しなくてはなりません。

思春期拒食症でも食欲に頼った食事を勧める訳にはいきません。食事どころか呼吸でも本能だけではうまく行かないことがあります。正しい呼吸が出来ず、呼吸をし過ぎて痙攣を起こす過呼吸症候群が

実行委員の挨拶

第二回病院文化祭を顧みて

文化祭実行委員長 野村晃

年頭の挨拶の中で高田院長が本年度の目標の一つに文化祭を挙げられました。

高齢化社会に突入し、医療と福祉の連携が叫ばれている

現在、地域医療に専心する私達の病院としては、地域の住民により理解を深めてもらい、同時に職員の連帯感をつよめる意味もあり文化祭を開催することとしたのであります。

八月二日第一回の文化祭実行委員会が開かれましたが、席上実行委員長の任を仰せつかり、各実行委員ともども文化祭開催に向けて歩き始めたのであります。

最初の難題はメインテーマの決定でありました。全体から

ら主題を募り、薬局からの「あたたかい医療をみんなの手で」をメインテーマに、事務からの「いつでもだれもが気軽に」をサブテーマに選びました。特別記念講演には、虎の内分科部長の紫芝良昌先生が「病気とどうつき合っていくべきなのか」という講題で講演してくださいました。

場者も予想外に多くの方々がおいで下さり、全く手探りで始めた文化祭にしてはまずまずの出来栄であったと考えるものであります。

秋晴れのもと、五百名の皆様をお迎えした第一回文化祭が、無事終了いたしました。裏方としてその準備に携わったので感想を述べさせていただきます。

準備いたしました。また、前日には房総時事新聞で文化祭開催を記事として書いて頂きました。このように病院の職員全員参加で盛り上がり、さらに病院の周囲の方々がさまざまな形で協力してくれました。病院を盛んに日なたに支えてくれる多くの力があることをひしひしと感じました。

当日は多くの方々より御厚志を頂きましたが、模擬店の収益金とともに君津市社会福祉協議会に寄付させていただきました。

最後に地域の皆様とこのような機会を持てましたことを感謝いたしますとともに、今後ますますのご後援をお願い致します。

文化祭のメインイベントとして、第一回院内研究発表会が午前中に会議室で行なわれた。九題の演題は学術的なものからオリエンテーション的なもの、またビデオセッション等多彩であった。時間は一題七分、質疑十分でしたが、予想を上回る質問が続き

内から外から病院を支える力をひしひしと

山口 稔

開かれた病院、みんなの為に、高度医療、病気の予防と治療の為に、いつでも、誰もが気軽に「家族ぐるみで、ご近所声をかけ合って入って」これら病院のイメージにまた一歩近づいたと思います。医療に携わるもの一人として、こういう感動を味わいながら仕事が出来るとは私には幸せです。

と出され、一昔三題四十分をはるかに越えてしまふ盛り上がりを見せた。医局からもビデオによる発表参加があり、会場をわかせた。

初めての研究発表会でもあり、実行委員としてはスムーズにいくか大変心配したが、全員参加により大変な盛り上がりが見られ、有意義な発表会となった。これを機会に各部署間の交流と相互理解が深まることを切に希望する。真剣な中にもユーモアあり、笑いありで和気あいあいの内に閉会となったが、この会を盛り立ててくれた講師の先生方、座長の皆さんに深く感謝いたします。

津波のようなパワーに

大神ヨシ子

子供を抱えたママさんナース、体調不良で食事も満足にとれないワーカーさん、血圧の薬を飲みながら気配り心配をふるう実行委員長、あの人の人……、とにもかくにも津波のように盛り上がりうねって進むあのパワーは一体どこから来るんでしょうか！これが文化祭を終えてほっとしている私の驚き入り実感です。

来場者の方々には家族ぐるみで「ご近所どうし声をかけあつて来ました」とか、いろいろな形で来場されましたが、みなさん本当に私達と一緒に楽しんでくれている様子でした。正直なところ私はこれにすっかり気を良くして、ついつい体で表現してしまつたのがあの「おむつショー」なのです。

アジア移植学会に出席して

院長 高田 真行

今、日本では小児肝移植がホットな話題を提供してありますが、今回私が出席した学会でもこの肝移植をはじめ、腎移植、骨髄移植にいたるまで幅広いテーマがとりあげられていました。かつて当院に勤務していた大場先生、海老原先生など、アジア全域から集まった若い医師たちの活躍が目立ちました。この学会が開かれたインドネシアのバリ島は、ヒンズー教の古い歴史を持つ一方で最近では観光地としての開発が凄まじく、島をとりまく白砂のビーチには、五つ星の豪華なホテルが林立しています。臓器移植という神をも恐れぬ最先端の医学に挑戦する学会の周辺では千年の歴史を持つ数多くの寺院で毎日繰り広げられる敬虔で神秘的な儀式がありました。豪華ホテルにあふればかりの日本人観光客の周辺では現地の人たちが敬虔で原始的と言つていいほど自然と同化した生活を営んでいます。赤道直下の灼熱の太陽と青い海のなかでパラセーリングを楽しむ観光客に混じって3日間を過ごし、この鮮烈な対比と較差に強い衝撃を受けました。カルチャーとは、文明とは一体何なのだ！

盛り上がりを見せた研究発表会

研究発表会委員長 岩松 勝實

文化祭のメインイベントとして、第一回院内研究発表会が午前中に会議室で行なわれた。九題の演題は学術的なものからオリエンテーション的なもの、またビデオセッション等多彩であった。時間は一題七分、質疑十分でしたが、予想を上回る質問が続き

と出され、一昔三題四十分をはるかに越えてしまふ盛り上がりを見せた。医局からもビデオによる発表参加があり、会場をわかせた。

初めての研究発表会でもあり、実行委員としてはスムーズにいくか大変心配したが、全員参加により大変な盛り上がりが見られ、有意義な発表会となった。これを機会に各部署間の交流と相互理解が深まることを切に希望する。真剣な中にもユーモアあり、笑いありで和気あいあいの内に閉会となったが、この会を盛り立ててくれた講師の先生方、座長の皆さんに深く感謝いたします。

